

国際共同研究事業 令和 5(2023)年度実施報告書

令和 6 年 4 月 12 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
神戸大学・大学院法学研究科
[職・氏名]
教授・砂原庸介
[課題番号]
JPJSJRP 20211704

1. プログラム名 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)

2. 研究課題名

(和文) 連続サーベイと量的テキスト分析によるパンデミックにおける信頼とその変化の測定

(英文) Measuring Trust and its Variance during the COVID-19 Pandemic Using Serial Surveys
and Quantitative Text Analysis

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ～ 令和 6 年 11 月 30 日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Brunel University London / Professor / Dorothy Yen

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

前年度に用意した基本的な調査票をもとに、本調査を継続していた。RA の大学院生の協力を得て、2023 年 4 月から 2024 年 3 月まで毎月 1 回の調査(通算 21 回)を完了した。この調査においては、毎回基本的に同じ質問を行うコア質問と、調査ごとに変更するアドホック質問を用意し、アドホック質問の中では複数回のサーベイ実験を実施した。実施してきたサーベイの分析のために、2024 年 1 月には英国チームが日本を訪問してワークショップを行っている。このワークショップでは、分析データを砂原が報告して全員で検討する会議を行ったほか(1 月 10 日)、日本側の大学院生の教育・訓練のためにプレゼンテーションと英国研究者との質疑を行うセミナーを実施した(1 月 9 日)。さらに、1 月 12 日には、論文として執筆されているプロジェクトについて、4 本のセミナー報告が行われた(砂原、多湖、Scott、Yen)。

調査と並行しながら、個別の論文を準備し、順次投稿を行っている。日本側代表者である砂原もプロジェクトに加わって、信頼を重要な独立変数として分析を行い、すでに投稿・出版が行われた国際共著論文が論文 2 本ある。その他、日本側のメンバーは共著者として加わっていないが、英国側メンバーが執筆した論文ですでに掲載決定されているものが 2 本あり、そのうち 1 本は非常にインパクトファクターの高い雑誌(Vaccination)である。それ以外についても、長期にわたるデータを用いた研究として砂原を中心とした論文の執筆が終了しており、その砂原担当部分の一部が 2024 年 3 月に学会報告として発表された。この論文は現在投稿中となっているほか、砂原が共著者として参加しているプロジェクトが 5 本以上存在する。日本側メンバーを中心とした研究としては、藤村と西村が準備している論文について執筆が終了し、学会報告も行われている。また 2024 年度の日本政治学会研究大会に向けて、砂原・藤村がいずれも上記とは別のプロジェクトを、多湖が心理尺度の開発に関するプロジェクトを実施しており、パネル報告の申請がすでに採択されている。

当初、テキストデータとしてツイッターの利用を考えていたものの、ツイッター(X)社の経営陣の交代とそれ以降のデータ提供方法の変更、同社の社会的評判の変化などのために研究計画を見直し、地域ごとのデータを収集して分析を行っている。すでに出版された論文は、イギリスを対象としてこのような地域ごとのデータとサーベイデータを組み合わせたものであった。現在日本側では、砂原と井坂が中心となって地域データとサーベイデータを組み合わせた研究プロジェクトを進めている。

7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(2)件 うち査読付論文 計(2)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、論文標題等 ^{*2}
1	○	Dorussen, H., & Hansen, M. E., & Pickering, S. D., & Reifler, J., & Scotto, T., & Sunahara, Y., & Yen, D. (2024). The Influence of Waiting Times and Sociopolitical Variables on Public Trust in Healthcare: A Cross-Sectional Study of the NHS in England. Public Health in Practice, 7(100484), 1-7.
2	○	Pickering, S. D., & Dorussen, H., & Hansen, M. E., & Reifler, J., & Scotto, T., & Sunahara, Y., & Yen, D. (2024). London, you have a problem with women: Trust towards the police in England. Policing & Society, x(x), x-x. In press.
3		

[学会発表] 計(2)件 うち招待講演 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	発表者名、発表標題等 ^{*2}
1		Naofumi Fujimura and Tsubasa Nishimura, "The Cabinet's Policy Dilemmas and Ministerial Positions on the COVID-19 Pandemic: A Text Analysis of Ministerial Speeches in the Japanese Diet*", A Association for Asian Studies, Sheraton Grand Seattle, 2024年3月16日
2		Yosuke Sunahara, "The Impact of Trust on Compliance Behaviors in Japan: A Survey-Based Study," Association for Asian Studies, Sheraton Grand Seattle, 2024年3月16日

[図 書] 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、著書名等 ^{*2}
1		

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

[出 願] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	

[取 得] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	

* 必要に応じて、欄を追加してください。